

令和6・7年度 川口市教育委員会委嘱「徳力向上」に関する研究発表会



研究紀要



川口市立八幡木中学校

〒334-0012 埼玉県 川口市 八幡木1-26-1

Tel:048-283-4006 Fax:048-282-6633

- 1 挨拶
- 2 研究概要
- 3 授業研究部の取り組み
- 4 資料調査部の取り組み
- 5 環境整備部の取り組み
- 6 成果と課題
- 7 ご指導いただいた先生方
- 8 研究に携わった教職員

1 挨拶

川口市教育委員会教育長 井上 清之



川口市立八幡木中学校におかれましては、令和6・7年度川口市教育委員会の「徳力向上」に関する研究委嘱を受け、研究主題に「生き生きと輝く対話を生み出す道徳教育～『本質的な問い』のある授業を通して～」を掲げ、道徳科の研究実践に取り組まれました。ここに、研究の成果が研究紀要としてまとめ、本日の発表となりましたことに、心より敬意を表します。

本校では、目指す学校像「道徳性を高め、互いに認め合い、高め合い、健康でいじめのない笑顔あふれる学校」の具現化に向け、全職員が一丸となって研究に取り組まれました。

本研究においては、学習指導要領に示されている「考え、議論する道徳」の実現に向け、授業の中で生徒同士はもとより、生徒と教師が対話を重ねながら、道徳的価値についての考えを深めていく実践を積み重ねられました。答えが一つではない道徳的な課題を生徒自身が自分事として捉え、道徳性を養えるようにするための指導の工夫についての研究は、道徳教育における先生方の指導力向上につながるものです。

これらの実践は、徳力向上の研究推進に多くの示唆を与えてくれるものであり、川口の教育の発展に大きく寄与するものであると確信しております。

結びに、本研究を力強く推進されました岸田健吾校長先生をはじめ、教職員の皆様のご努力に心より感謝の意を表すとともに、今後なお一層の研究の発展に向けてご尽力くださることをご期待申し上げ、挨拶といたします。

川口市立八幡木中学校長 岸田 健吾

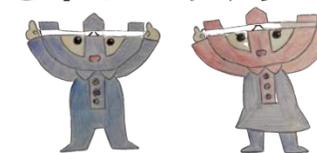


本校は、令和6・7年度川口市教育委員会の「徳力向上」の研究委嘱を受け、「生き生きと輝く対話を生み出す道徳教育～『本質的な問い』のある授業を通して～」という研究主題のもと、開智国際大学教育学部教授 土井雅弘先生のご指導をいただき、研究に取り組んでまいりました。おかげさまで、道徳の授業が楽しいと思う生徒が増えてきています。

学習指導要領の趣旨にある「考え、議論する道徳」を充実することを踏まえて、「本質的な問い」のある授業を展開することによって、互いが高め合える生徒を育成してまいりました。本校の道徳の授業は、教師の中心発問に対して生徒の発言を二つに分け、「私の理由は〇〇だ」と一つの理由を挙げた生徒が比較・吟味を通して多様な理由を知り、納得できる理由をつかみ取っていく授業です。さらに、八幡木中「発問シート」を活用し、教師の問いを重ねる対話によって、道徳的価値を高めております。

また、埼玉県学力・学習状況調査結果において、「話を聞き発表する」生徒が昨年度を上回った状況から生徒の高まりが見て取れます。このことは学力向上に確実につながってまいります。

結びに、今回の研究においてご指導を賜りました、開智国際大学教育学部教授 土井雅弘様、川口市教育委員会の先生方に厚く御礼を申し上げ、あいさつとします。



2

研究概要



目指す学校像

道徳性を高め、互いに認め合い、高め合い、健康でいじめのない笑顔あふれる学校

生徒の実態

R6県学調結果より 現3年生

「あいさつ」82.5% 「返事」85.1% 「やさしい言葉遣い」88.3%

「話を聞き、発表する」**77.9%** 「丁寧な言葉遣い」89% 「集団の場での態度」90.3%

↑この質問項目のみ80%を下回っていた。

仮説

生き生きとした対話が生まれる道徳授業を展開することによって、互いを認め合い、高め合える生徒が育成できるだろう。

研究主題

生き生きと輝く対話を生み出す道徳教育

～「本質的な問い」のある授業を通して～



手立て

- ・「二分法・本質的な問い」のある授業実践
- ・研究体制の充実

本校の研究体制

道徳委嘱研究推進委員会
企画提案・研究推進

授業研究部

指導案の吟味
校内研究授業の実施

資料調査部

道徳アンケートの実施・分析
県学力・学習状況調査結果の
規律ある態度の分析

環境整備部

発問シートの作成
道徳コーナーの設置
道徳通信の発行

3

授業研究部の取り組み Part1

計4回の研究授業

毎学期に1回の研究授業で研究を継続して実施。



令和6年度2学期当初に2年生にて1回、3学期に1年生にて1回、令和7年度1学期に3年生にて1回、1年生にて1回研究授業を行った。そのうち3回講師の土井先生にお越しいただき、指導助言をいただいた。回数を重ねるごとに職員全体の授業の質が向上した。

学年で指導案検討

授業者のみでなく、学年全員で検討。



毎学期実施した研究授業は、授業者だけでなく学年職員全員が関わり、指導案検討を行った。様々な視点から中心発問を設定する場面や二分する問い、本質的な問いについて検討した。その積み重ねが学年全体でのローテーション道徳に生かされている。

ローテーション道徳

教員全員が二分法・本質的な問いのある授業を展開。



各学年でローテーション道徳を実施。各自で教材を決め、実際に二分法・本質的な問いのある授業を検討し、実施している。1つの教材で複数回授業を行えるため、発問等を改善しながら授業力を向上させている。また、自分の授業がない場合は他の教員の授業を参観し、学び合っている。

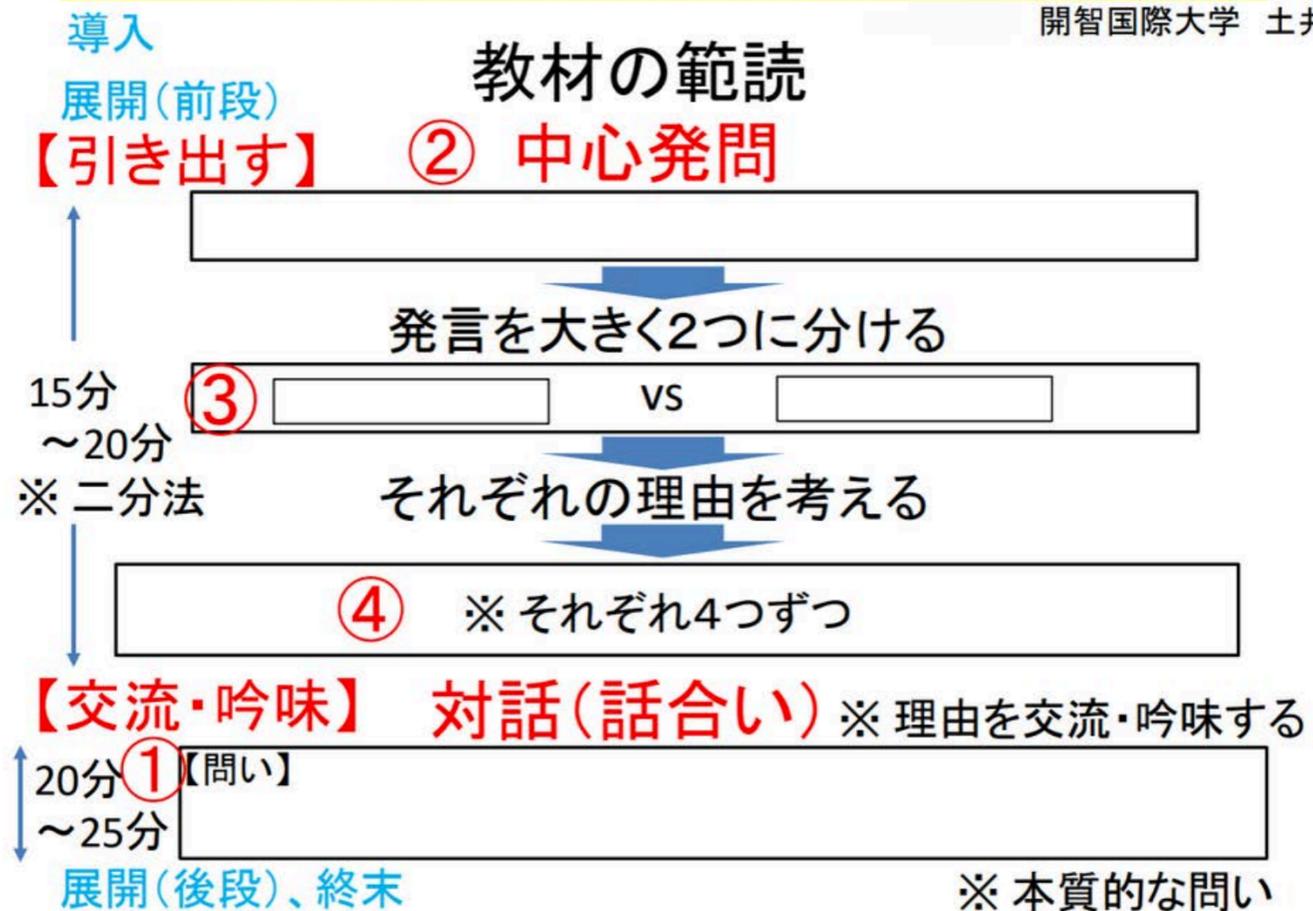
3

授業研究部の取り組み

Part 2

「二分法・本質的な問い」のある道徳授業の流れ

開智国際大学 土井



「二分法・本質的な問い」のある授業実践

「価値に関する導入」→「教材の範読」の後、左資料の流れで授業を実践した。

②中心発問

価値に関して主人公の心が最も揺れ動く場面を中心発問する。

③発言を大きく2つに分ける

生徒の意見を「引き出した」あとにその発言の内容を大きく2つに分け、「どちらの気持ちの方が強いだろうか」等と発問し、選択させる。

④それぞれの理由を考える

自分が選んだ理由を考える。その理由を生徒から「引き出す」。生徒の発言をすべて板書するのではなく、中でも特に吟味したいものについて4つ程度板書しておく。

①理由について吟味し、「本質的な問い」を考える

さらにその理由について「吟味する」。そこまで生徒が出した意見に対して「本当にそうなのだろうか」と教師が切り返し発問する。生徒がそれまで持っていた自分の意見について改めて考え、自分の中での納得解を探す。最後にその授業でねらいとしている価値項目に迫る「本質的な問い」を生徒へ投げかけ、さらに吟味する。

※授業案を作成する際には、①~④の順番に考えていくと良い。

「二分法・本質的な問い」のある授業実践におけるポイント

生徒が対話する時間を多くとるため、感想等を記入する時間は授業最後の5分程度。

あくまで主人公の立場で意見を発表させる。

- ×「この主人公の行動は 良い?悪い?」
(この聞き方だと生徒自身の意見を言わせることになる)
- ◎「このときの主人公の心の中はどんなだろう?」

「吟味する」段階での切り返し発問では「あえて教師が切り返す」と生徒に伝えておく。そうすることで生徒が自分の意見を否定されたと感じにくい。

教師が想定していた意見が出なかったときには、「先生気になるんだけど、~についてはみんなどう思う?」と展開すると良い。

4 資料調査部の取り組み

質問 道徳の授業は好きですか

令和7年7月

54% 好き
12% 苦手
34% どちらともいえない



令和7年11月

55% 好き
12% 苦手
33% どちらともいえない

「苦手」と答えた生徒の分析について
全体12% (内訳: 3年7% 2年12% 1年20%)

この「二分法・本質的な問い」のある授業展開は最初は難しく抵抗感があるようだが、続けていくほど、「考え・議論する」ことが楽しく感じるようになっていくことがわかる。



資料調査部は生徒向けにアンケートをとり、その結果を分析し、教職員全体に共有できるように整理した。また、県学調の「規律ある態度」の分析を引き続き行った。

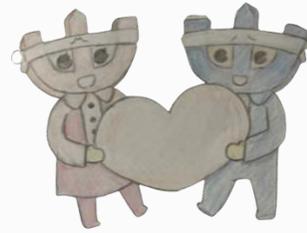
好きな理由 
・あまり話をしたことがない人とも話ができるから
・自分の考えを発表できる貴重な機会だから
・今までの自分とは違う考えが見つかるから
・人の気持ちを考えることができるから

苦手な理由 
・答えがなくてずっと考えているから
・登場人物の心情を考えるのが苦手だから
・日常生活で使わない題材もあるから
・最後の振り返りを書くのが苦手

どちらともいえない理由
・聞かれたら意見を言えるが、自分から言うのは苦手
・重い話もあって考えるのが難しいから
・興味のない題材もあるから
・考えても納得いかないことがあるから

5

環境整備部の取り組み



ORIGINAL

発問シートの作成

二分法・本質的な問いのある授業
発問シート

記入者(西)
担当学年(1)
授業で扱った教材名(銀色のシャープペンシル)
道徳的価値(D 22よりよく生きる喜び)

① 授業を通して生徒に気づかせたい価値↓

誰しもが心の弱さを持っているが、自分に恥じない選択をすることが誇らしい生き方へつながると気づかせたい。

③ 中心発問 10分対話

電話が来た。卓也は「僕の勘違いだった。それに、本当のことを言うと、少し君のことを褒めていた。ごめん」と謝った。卓也の謝る、元気のない声を聞いている主人公「ぼく」の心の中はどんなでしょうか？

↓予想される生徒の答え↓

- ・本当のことを言った方がいいかな? ・卓也に申し訳ない ・罪悪感がある
- ・バレなくてよかった
- ・本当のことを言うのは怖い。

④ 発言を大きく2つに分ける 10分対話

「みんなの意見では『申し訳ない』とか『バレなくてよかった』という気持ちがあるみたいだね。では、電話口の『ぼく』は『正直に言わなければ』という気持ちはあるの?それとも『今さら本当のことは言えない』という気持ちが強いのか?どっちの気持ちが強いと思う?」 ※4つずつめどに

●今さら本当のことは言えない 理由を教えてください	○正直に本当のことを言わなければ 理由を教えてください
↓予想される生徒の答え↓	↓予想される生徒の答え↓
<ul style="list-style-type: none"> ・黙ってればバレない ・盗ったことを認めることになる ・盗むような人間だと思われたくない ・先生に怒られる。盗ったことが親にバレる(評価が下がる) ・みんなに信頼、信用されなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・(正直に話す)卓也に悪い(恥ずかしい)から ・ずっと黙っているのはスッキリしないから(スッキリしたいから) ・今なら許してもらえかもしれないから ・黙っているのは人間として恥ずかしいから

各教材で二分法の流れを元に生徒の反応を予想しながら「発問シート」を作成し、授業で活用した。教材整備にも活かしている。

道徳通信の発行

生き生きと輝く対話を生み出す道徳授業を目指して
八幡木道徳ニュースレター 第3-2号 2025 11

●土井先生への質問
Q 主人公がいけないときはどうする?自然愛護とか → A 花を見て、どう感じるか。散歩してどう自然を感じるか。作者はこのときどう感じるのかかこのように考えるとどの教材でも二分法ができる。
O 樹木!かん固まー!もう生徒、そういうときはどうする?生徒を信じ!アザム結構好き?

第2-1号 2025 7

■7月8日(火)、研究授業が行われました。

●土井先生からいただいた指導内容(一部抜粋)

- ・「自分だったらどうなの?」とは質問しない。
- ・将来出会うであろう場面を考える。今の自分を語りすぎない。
- ・あくまで登場人物の立場で考える。問い返して子供がムキになると深くなってくる。
- ・教員が道徳を好きになる。教員が好きにならないと子供も好きにならない。
- ・他の人の意見から自分の考えを深める生徒は増えていない。
- 切り返しの問いが弱いのでは?
- ・道徳はついてこれない生徒がいけないから勇気を持って問い返す。
- 「缶コーヒーについて」
- ・話し合いの雰囲気が良い。
- ・今日は権利と義務の話。マナーの話になると難しい。
- ・ファミレスで友達に注意できる?という導入。知っている人に言うか、どうかは価値がずれる。周りにうるさい人(知らない人)がいる。注意する?しない?の導入の方が教材に近い。
- 「注意するのとしないの、どっちがいいのか、その本質を今日考えていこう」
- ・先に明確に価値を言ってしまうと子供が先に答えをもってしまふので、それは意味にした方がいい。教材によるが...
- ・主人公は誰にするのかを明確にする。「今日は女子高生を主人公にしましょう。」
- それ以外の人物の視点で考えると50分では深まらない。主人公は1人しておく。
- ・「本質的な問い」について感想を書き時間費やされてしまうのはもったいない。「本質的な問い」でもっと対話をする。
- ・子供達は納得してしまつたらそこで思考が止まってしまふ。
- ・中心発問 注意したときの気持ち「注意した」と限定してしまうのはどうか。
- ・女子高生が注意した」とすると選択した後に注意してしまふ。
- 注意するかしないかの方がいいのでは?
- ・竹内さんと2人で言えば?と書くと方法論の議論になってしまう。
- ・行動選択の理由を追っていくところが価値観へ迫る。

今回の「缶コーヒー」の授業の展開を構想しなおすと...

校内での道徳に関する取組をまとめ、「八幡木道徳ニュースレター」という形で共有した。これまでの研究授業の経緯もここにまとめている。

道徳教材の整備



場面絵やワークシートや、「発問シート」をまとめた上で、誰もが使いやすいよう、保管場所の整備を進めた。

6 成果と課題

成果



- ・「先生たちのおかげで道徳の時間が楽しい」と答える生徒が増えた。
- ・「どう答えればいいのかわかる道徳」「知っていることをなぞる道徳」から、「考え、議論する道徳」へ授業改善することができた。
- ・二分することによって、対話が生まれやすく、生徒もわかりやすい授業展開になった。
- ・八幡木中オリジナルシート「発問シート」を活用することによって教材研究の流れがわかりやすくなり、経験の浅い教員も授業準備をしやすくなった。
- ・クラスメイトの意見を聞き、認め、自分の考えを持つことができる生徒が増加した。
- ・対話を繰り返しながら道徳的価値について考える授業を通して言葉づかいに対して意識する生徒が増えた。

県学調結果	現3年生		現2年生	
	R6	R7	R6	R7
あいさつ	82.5	85.2	79.3	87.7
返事	85.1	93.5	90.0	94.9
丁寧な言葉づかい	89.0	91.0	92.9	95.7
やさしい言葉づかい	88.3	89.7	87.9	94.9
話を聞き発表する	77.9	81.9	82.1	80.4
集団の場での態度	90.3	93.5	93.6	93.5

課題

- ・生徒がこれまで学校で受けてきた道徳授業で培われた価値観をなぞるような授業になってしまうこともまだあるため、授業者の発問を工夫し、さらに価値へ迫る授業を研究する必要がある。
- ・「本質的な問い」をどこに設定し、生徒からの出た答えをもとにどのように深めていくか、「繰り返し発問」に重点を置く授業作りをする必要がある。

7 ご指導いただいた先生方（敬称略）

開智国際大学教育学部教育学科教授 土井 雅弘

川口市教育局学校教育部指導課指導主事 小山 泰昇

8 研究に携わった教職員



【令和7年度】

校長 岸田 健吾 教頭 太田 宏和 教務主任 川崎 悠

江原 聡
山口 海都
西 龍馬
福島 朋実
佐藤 幸樹
宮沢 裕弥佳

阿部 佳恵
石塚 光一郎
石井 彩織
小川 堅大
三木 成美
飯塚 悠貴

仲西 寛樹
惣万 美華
野呂 奈央
島田 彩菜
九澤 優衣
成井 健佑

舟橋 岳見
高橋 宏唯
紅谷 守
船渡 彩寧
佐藤 有希乃
佐藤 和子

松本 倫子
東宮 有希
山下 彩
柳澤 清香
熊谷 祐香
林田 美智子

黒川 実沙
小口 浩
碓 友美
大越 章子
川田 郁斗
西條 誠

原田 円
伊藤 久男
土屋 賢治

石川 大暁
小笠原 咲
堀 哲也
矢作 志穂莉
飯田 昭一
工藤 宏文

【令和6年度】

教頭 清水 勇統

近藤 弘司
眞殿 愛弓
坂牧 美栄
黒川 由紀子
徳永 勝弘
門馬 政明

↓八幡木中学校HPはこちら↓



八幡木中オリジナル
「発問シート」を掲載!



↓研究委嘱に関する感想記入はこちら↓



↑本校道德に関するHPはこちら↑
～掲載内容～

- 公開授業指導案
- 研究紀要
- 「発問シート」
- これまでの本校取り組み

